

刈払機用コンテナ苗植穴堀器の開発 大型輸送用コンテナ開発と植付作業の効率化

紋別地区種苗協議会 参事 遠藤 貞

研究の背景と目的

コンテナ苗木の普及拡大に向けて、植え付け器具の開発は労働の軽減と、植え付け工期をも上げることにつながります。

また、コンテナ苗を傷めないで大量に輸送を行い、植え付け小運搬を極力省略化出来ないかについて研究開発を行いました。



1 刈払機用コンテナ苗植穴堀器具の開発

現在使われている植え付け器具は土壌条件等により万能タイプのものはありません。手作業でなく機械で穴を掘ることが出来れば、労働軽減・植付工期の向上を図ることが出来ます。

現場で使われている刈払機の植穴堀器作りの研究開発に取り組みました。

開発した植穴堀器具は①コンテナ苗植穴堀器、②植穴部位根茎切断器、③苗間自動測定器から出来ておりますので発表します。

2 大型輸送用コンテナ開発の目的

コンテナ苗育苗・大量輸送の効率化と活着率・成長量の向上を目的として「大型輸送用コンテナ」を作成しました。

コンテナ苗を容器ごと山出しすることで、根鉢の傷みもなく、夏季生長期の新芽等の傷も最小限に押さえることが出来ます。今後増える夏季植栽の山出しに適応した方法となります。

輸送用トラックから降ろした「大型輸送用コンテナ」を苗木運搬車の入れない作業道・ブル搬出集材路・平坦な造林植付地を小型重機等で牽引し、植付地の要所に運ぶことにより苗木の小運搬を極力少なくすることが出来ます。

また、開発した「コンテナ小運搬用背負子」・「コンテナ苗持ち運び器」で容器に入れたまま運ぶことにより、苗畑か植え付け箇所までコンテナ苗は容器から抜かれることがないので根鉢の傷みはありません。活着率・成長量の向上を望むことが出来ます。

